

# 大正五年 十二月改正 遞信省造船規定

遞信省に於ては、今回造船規定を改正公布され來る大正六年一月一日より施行する事となりしか其内船體及び汽關部に於ける材料及材料試驗に關するものを拔萃すれば左の如し。(編者識)

## 第二編 船體部

### 第二章 材料及材料試驗

第二十二條 壓延鋼材ハ平爐ニ依リ製造シ裂疵其ノ他ノ缺點ナキモノナルコトヲ要ス

第二十三條 鉸釘用鋼圓材ヲ除キ其ノ他ノ壓延鋼材ニハ左ノ試驗ヲ執行スヘシ

- 一 抗張試驗 鋼材ノ厚〇・三七五吋未滿ナルトキハ幅二吋半ヲ厚〇・三七五吋以上〇・八七五吋以下ナルトキハ幅二吋ヲ厚〇・八七五吋ヲ超ユルトキハ幅一吋半ヲ超エサル試驗材ニ付執行シ一平方吋ノ抗張力ハ二十八噸以上三十二噸以下ニシテ其ノ伸長ノ割合ハ八吋ノ標點間ノ長ニ於テ厚〇・三七五吋未滿ナルトキハ百分ノ十六以上、厚〇・三七五吋以上ナルトキハ百分ノ二十以上ナルコトヲ要ス但シ鋼板ヲ除キ其ノ他ノ鋼材ハ抗張力ノ上限ハ三十三噸ト爲シ伸長ノ割合大ナル鋼材及常溫ニテ曲緣工事ヲ施スヘキ鋼枚ハ抗張力ノ下限ヲ二十六噸ト爲スコトヲ得

- 二 屈曲試驗 燒入屈曲試驗ニ於テハ血紅色ニ熱シタル試驗材ヲ華氏八十度以下ノ水中ニテ冷却シ之ヲ試驗材ノ厚ノ三倍ヲ超エサル内徑ヲ以テ百八十度屈曲シ裂疵ヲ生セサルコトヲ要ス

常溫屈曲試驗ニ於テハ常溫ノ儘前項ノ試驗ヲ執行シ裂疵ヲ生セサルコトヲ要ス

前項第二號ノ試験材ハ幅一吋以上ニシテ試験スヘキ鋼材ヨリ剪斷シタル儘ト爲スヘシ但シ厚〇五吋以上ナルトキハ剪斷面ヲ平削スルコトヲ得

第二十四條 梁柱、舵板及厚〇二吋ヲ超エサル鋼材ニハ抗張試験ヲ省略スルコトヲ得

甲板室、船樓甲板上又ハ蔽圍シタル場所ニ在ル縁材ヲ除キタル機關室圍壁及圍壁、艙口、石炭庫圍壁、錨鎖庫圍壁、仕切隔壁、舷牆、彎曲部龍骨、汽罐臺、補助機臺其ノ他之ニ相當スル部分ニ用ウル鋼材ニハ材料試験ヲ省略スルコトヲ得

前二項ニ掲クルモノノ外重要ナラサル部分ニ使用スル鋼材ニハ特ニ遞信大臣ノ認可ヲ受ケ材料試験ヲ省略スルコトヲ得

第二十五條 鉸釘用鋼圓材ハ徑ノ八倍又ハ四倍ニ等シキ標點間ノ長ヲ有スル試験材ニ付抗張試験ヲ執行シ一平方吋ノ抗張力ハ二十五噸以上三十噸以下ニシテ其ノ伸張ノ割合ハ標點間ノ長カ徑ノ八倍ナルトキハ徑ノ百分ノ二十五以上、徑ノ四倍ナルトキハ百分ノ三十以上ナルコトヲ要ス

第二十六條 前條ノ抗張試験ヲ執行セサル鋼圓材ヲ以テ製造シタル鉸釘ニハ左ノ試験ヲ執行スヘシ

一 屈曲試験 常溫ノ儘其ノ桿部ヲ百八十度屈曲シテ相接著セシメ屈曲ノ外部ニ裂疵ヲ生セサルコトヲ要ス

二 鍛鍊試験 鉸釘ヲ熱シ其ノ頭ヲ釘徑ノ二五倍迄ニ扁平ニ打壓シ裂疵ヲ生セサルコトヲ要ス

第二十七條 鑄鋼材ハ適當ナル燒鈍爐ニ於テ燒鈍スルコトヲ要ス燒鈍後施工ノ爲再ヒ之ヲ熱シタル場合ニ於テハ検査官吏ニ於テ必要ト認ムルトキハ更ニ燒鈍スルコトヲ要ス

重要ナル鍛鋼材ニシテ検査官吏ニ於テ必要ト認ムルモノニ付テハ適當ニ燒鈍スルコトヲ要ス

燃鈍スヘキ材料ノ試験材ハ燒鈍後之ヲ切取ルコトヲ要ス

第二十八條

鑄鋼製ノ船首材、船尾骨材、舵、舵柄、螺旋軸支肘等ニハ左ノ試験ヲ執行スヘシ

一 抗張試験

徑〇五六四吋ナルトキハ二吋、徑〇七九八吋ナルトキハ三吋、徑〇九七七吋ナルト

キハ三吋半ノ標點間ノ長ヲ有スル試験材ニ付執行シ一平方吋ノ抗張力ハ二十六噸以上三十

六噸以下ニシテ其ノ伸長ノ割合ハ標點間ノ長ニ於テ百分ノ二十以上ナルコトヲ要ス

二 屈曲試験

幅一吋厚四分ノ三吋ノ長方形截面ヲ有シ其ノ四隅ヲ半徑十六分ノ一吋ノ圓形ト

爲シタル試験材ヲ作り常溫ノ儘二吋ヲ超エサル内徑ヲ以テ百二十度以上屈曲シ裂痕ヲ生セ

サルコトヲ要ス

三 墜落試験

一材ニ鑄造シタル船尾骨材ニ於テハ其ノ突出部ノ形狀ニ適合スヘキ穴ヲ硬質ノ

地面ニ穿チ置キ該材ノ一端ヲ地面ト四十五度ノ傾斜ニ起シテ地上ニ墜落シ又船首材、舵、舵柄

螺旋軸支肘、二材以上ニ鑄造シタル船尾骨材等ニ於テハ其ノ形狀及重量ニ應シ七呎乃至十呎

ノ高ヨリ之ヲ墜落スヘシ但シ長大又ハ複雑ナル形狀ニシテ之ヲ墜落スルトキハ變形スル虞

アルモノニ付テハ鑄物ノ上部及底部ヨリ各二箇ノ試験材ヲ採リテ抗張試験及屈曲試験ヲ執

行シ墜落試験ヲ省略スルコトヲ得

四

錘打試験 鑄鋼材ハ墜落試験ヲ執行シタル後之ヲ吊シテ重量七封度以上ノ錘ヲ以テ敲キ其

ノ生來ノ裂痕及墜落試験ニ起因スル裂痕ノ有無ヲ檢シ其ノ痕跡ヲキコトヲ要ス

錘打試験ハ墜落試験ヲ省略シタルモノニ付テモ亦之ヲ執行スヘシ

前項ニ掲ケサル鑄鋼材ニハ検査官吏ニ於テ必要ト認ムルトキハ適當ナル材料ヲ執行スヘシ

第二十九條

可鍛鑄鐵製ノ舷窓ノ枠及栓ハ遞信大臣ノ適當ト認ムル材料試験ニ合格シタルモノナ

ルコトヲ要ス但シ船樓ニ設クル舷窓又ハ舷窓ノ下端カ滿載喫水線上十呎以上ノ位置ニ設クルモ

ノノ枠及栓ニ付テハ該試験ヲ省略スルコトヲ得

前項ニ掲ケサル可鍛鑄鐵材ニハ検査官吏ニ於テ必要ト認ムルトキハ適當ナル材料試験ヲ執行スヘシ

第三十條 鍛鋼材ハ幹部ノ截面ヲ原塊鋼ノ截面ノ五分ノ一以内ニ、其ノ他ノ部分ノ截面ヲ原塊鋼ノ截面ノ三分ノ二以内ニ鍛鍊シタルモノナルコトヲ要ス

第三十一條 鍛鋼材ニハ幹部ヨリ小ナラサル截面ヲ有スル部分ヨリ縦ニ切取リタル試験材ニ付左ノ試験ヲ執行スヘシ

一 抗張試験 徑〇五六四吋ナルトキハ二吋、徑〇七九八吋ナルトキハ三吋、徑〇九七七吋ナルトキハ三吋半ノ標點間ノ長ヲ有スル試験材ニ付執行シ一平方吋ノ抗張力ハ二十六噸以上三十一噸以下ニシテ其ノ伸長ノ割合ハ標點間ノ長ニ於テ抗張力二十六噸ノモノハ百分ノ三十一以上、抗張力三十五噸ノモノハ百分ノ二十二以上又抗張力ノ噸數ト伸長ノ割合ノ百分率ノ分子トノ和ハ五十七以上ナルコトヲ要ス但シ鍛接ヲ爲スヘキ鍛鋼材ハ一平方吋ノ抗張力二十噸以上二十六噸以下ニシテ其ノ伸長ノ割合ハ標點間ノ長ニ於テ抗張力二十二噸ノモノハ百分ノ三十五以上、抗張力二十六噸ノモノハ百分ノ三十一以上又抗張力ノ噸數ト伸長ノ割合ノ百分率ノ分子トノ和ハ五十七以上ナルコトヲ要ス

二 屈曲試験 幅一時厚四分ノ三吋ノ長方形截面ヲ有シ其ノ四隅ヲ半徑十六分ノ一時ノ圓形ト爲シタル試験材ヲ作り常溫ノ儘二分ノ一時ヲ超エサル内徑ヲ以テ百八十度屈曲シ裂疵ヲ生セサルコトヲ要ス但シ一平方吋ノ抗張力三十二噸ヲ超ユルモノニ在リテハ屈曲ノ内徑ヲ四分ノ三吋ト爲スコトヲ得

小形鍛鋼材ニシテ鍛造完了ノ際一樣ニ加熱シタルモノ又ハ適當ナル燒鈍法ヲ施シタルモノニ付テハ前項ノ試験ヲ省略スルコトヲ得

第三十二條 試驗材ノ數ハ左表ニ依ルヘシ

種類

抗張試驗材ノ數

屈曲試驗材ノ數

鍛鍊試驗材數

壓延鋼材（鉸釘用圓材ヲ除ク）

同一鑄解ノ板若ハ形材每ニ  
一箇（板若ハ形材カ二十五  
噸ヲ超ユルトキハ一箇ヲ加  
ヘ又板若ハ形材ノ厚カ〇・  
一五吋ヲ異ニスルモノ毎ニ  
一箇ヲ加フ）又ハ同一種  
類ノ材料ヨリ検査官吏ノ適  
當ト認ムル數

一箇ノ鋼片ヨリ壓延シタル  
板若ハ形材毎ニ一箇又ハ同  
一種類ノ材料ヨリ検査官吏  
ノ適當ト認ムル數

鉸釘用圓材

同一鑄解ノ材料十噸若ハ十  
噸未滿毎ニ一箇又ハ同一種  
類ノ材料ヨリ検査官吏ノ適  
當ト認ムル數

鉸釘

同一種類ノ鉸釘ヨリ検査官  
吏ノ適當ト認ムル數

同上

鑄鋼材

鑄鋼材毎ニ一箇、二鑄解以  
上ノ鑄解ヨリ製造シタル鑄  
鋼材ニ付テハ四箇

同上

鍛鋼材

鍛鋼材毎ニ一箇

同上

同一鑄解又ハ同一種類ノ板若ハ形材ヨリ採リタル屈曲試驗材ニハ約半數宛燒入屈曲試驗ト常温  
屈曲試驗トヲ執行スヘシ但シ常温ニテ曲線工事ヲ施スヘキ鋼板ノ試驗材ニハ検査官吏ノ見込ニ  
依リ常温屈曲試驗ノミヲ執行スヘシ

第三十三條 本章第二十三條及第二十五條ノ試驗材カ試験ニ合格セサルトキハ更ニ同一ノ鋼材ヨ  
リ二箇ノ試驗材ヲ採リ其ノ適否ヲ試験シ二箇ノ試驗材カ共ニ試験ニ合格シタル場合ニ於テハ之  
ヲ合格トス

前項ノ試験ニ合格セサル場合ニ於テハ試験材ヲ採リタル鋼材ヲ除キ其ノ他ノ鋼材毎ニ本章第二十三條及第二十五條ノ試験ヲ執行シ合格シタルモノハ之ヲ合格トス

本章第二十六條ノ試験材カ試験ニ合格セサルトキハ更ニ二箇ノ試験材ヲ採リ其ノ適否ヲ試験シ二箇ノ試験材カ共ニ試験ニ合格スルトキハ之ヲ合格トス

本章第二十八條及第三十一條ノ試験材カ抗張試験又ハ屈曲試験ニ合格セサルトキハ検査官吏ニ於テ該試験ノ結果ヲ考量シ試験材カ適當ニ材質ヲ表明セスト認メタル場合ニ限り合格セサルモノニ對シ更ニ試験材ヲ作り其ノ適否ヲ試験シ該試験材カ合格スルトキハ之ヲ合格トス

第三十四條 遞信大臣ハ本章ノ規定ニ合格セサル材料ト雖材料試験ノ成績ニ徴シ之カ使用ヲ認可スルコトアルヘシ

## 第一編 機關部

### 第二章 材料試験

第七條 抗張試験ヲ執行スヘキ試験材ハ左ノ寸法ト爲スコトヲ要ス

一 鐵板 標點間ノ長八吋幅一時四分ノ一以上ニシテ厚ハ成ルヘク壓延シタル儘ト爲スヘシ

二 鋼板及鋼形材 標點間ノ長八吋ニシテ厚ハ成ルヘク壓延シタル儘ト爲シ幅ハ試験材ノ厚〇・三七五吋未滿ナルトキハ二吋半ヲ〇・三七五吋以上〇・八七五吋以下ナルトキハ二吋ヲ〇・八七五吋ヲ超ユルトキハ一時半ヲ超ユルコトヲ要ス

三 支柱用及螺旋支柱用鐵圓材 標點間ノ長八吋ニシテ其ノ截面積〇・二五平方吋以上ナルコトヲ要ス

四 鋼圓材 標點間ノ長試験材ノ徑ノ八倍ニシテ其ノ截面積〇・二五平方吋以上ナルコトヲ要ス

但シ試験材ノ徑一吋ヲ超エルトキハ標點間ノ長ヲ試験材ノ徑ノ四倍ト爲スコトヲ得

五 鋼鉸釘 標點間ノ長ハ試験材ノ徑ノ二・五倍ナルコトヲ要ス

六 鑄鋼材及鍛鋼材 標點間ノ長ハ徑〇・五六四吋ナルトキハ二吋、徑〇・七九八吋ナルトキハ三吋、徑〇・九七七吋ナルトキハ三吋半ナルコトヲ要ス

第八條 屈曲試験ヲ執行スヘキ試験材ハ左ノ寸法ト爲スコトヲ要ス

一 板及形材 幅一吋半以上ニシテ試験スヘキ板又ハ形材ヨリ剪斷シタル儘ト爲スヘシ但シ厚〇・五吋以上ナルトキハ剪斷面ヲ平削スルコトヲ得

二 圓材 徑ハ壓延シタル儘ト爲スコトヲ要ス但シ徑一吋半ヲ超ユルトキハ其ノ徑ヲ一吋半迄減スルコトヲ得

三 鑄鋼材及鍛鋼材 幅一吋厚四分ノ三吋ノ長方形截面ヲ有シ其ノ四隅ハ半徑十六分ノ一吋ノ圓形ト爲スヘシ

第九條 汽罐ノ製造ニ使用スル鐵材ニハ左ノ試験ヲ執行スヘシ

一 抗張試験 板ハ一平方吋ノ抗張力纖維ニ沿ヒテハ二十噸以上、纖維ヲ横リテハ十八噸以上ニシテ其ノ伸長ノ割合ハ纖維ニ沿ヒテハ百分ノ九以上、纖維ヲ横リテハ百分ノ七以上、支柱用、螺旋支柱用及鉸釘用圓材ハ一平方吋ノ抗張力二十三噸以上ニシテ其ノ伸張ノ割合ハ百分ノ十五以上ナルコトヲ要ス

二 鍛鍊試験 鉸釘ハ之ヲ熱シ其ノ頭ヲ釘徑ノ二・五倍迄ニ扁平ニ打壓シ且釘身ヲ扁平ニシ之ニ釘徑ニ等シキ打貫孔ヲ穿チ裂疵ヲ生セサルコトヲ要ス

螺旋支柱ニシテ其ノ端ヲ鉸締スルモノニハ鉸釘ニ準シ試験ヲ執行スヘシ

第十條 汽罐ノ製造ニ使用スル鋼材ニハ左ノ試験ヲ執行スヘシ

一 抗張試驗 抗張力及伸長ノ割合ハ左表ニ依ルヘシ

種類

抗張力(毎平方吋噸ニテ)

標準試驗材ノ伸長ノ割合 (百分率)

長カ徑ノ四倍ヲ有スル試驗材ノ伸長ノ割合(百分率)

銅板、支梁板其他  
加工ノ爲加熱セサル板  
反火焰ニ接觸セサル板

二六以上二七未滿  
二七以上二八未滿  
二八以上三二以下

厚〇・三七  
五吋未滿  
一八・五  
五吋以上  
二二・三  
一一・五  
二〇

其ノ他ノ諸板

二五以上二六未滿  
二六以上三〇以下

厚〇・三七  
五吋未滿  
二一・五  
五吋以上  
二四・五  
二二・三

支柱用圓材及形材

二六以上二七未滿  
二七以上二八未滿  
二八以上三二以下

二二三  
二二・五  
二〇

二七  
二五・五  
二四

螺旋支柱用圓材

二五以上二六未滿  
二六以上三〇以下

二四・五  
二三

二九・五  
二八

鉸釘用圓材

二五以上二六未滿  
二六以上三〇以下

二六・五  
二五

三一・五  
三〇

鉸釘用圓材ニ付抗張試驗ヲ執行セサルトキハ該圓材ヨリ製作シタル鉸釘ニ付抗張試驗ヲ執行スヘシ此ノ場合ニ於テハ一平方吋ノ抗張力ハ二十五噸以上三十噸以下ニシテ其ノ截面積ノ縮少ノ割合ハ百分ノ六十以上ナルコトヲ要ス厚十六分ノ三吋ヲ超エサル板ニハ抗張試驗ヲ省略スルコトヲ得重要ナラサル部分ニ使用スル材料ニ付遞信大臣ノ認可ヲ得タル場合亦同シ

二 屈曲試驗

板圓材及形材ノ燒入屈曲試驗ニ於テハ血紅色ニ熱シタル試驗材ヲ華氏八十度以下ノ水中ニテ冷却シ之ヲ試驗材ノ厚又ハ徑ノ三倍ヲ超エサル内徑ヲ以テ百八十度屈曲シ裂



疵ヲ生セサルコトヲ要ス

板、圓材及形材ノ常温屈曲試験ニ於テハ常温ノ儘前項ノ試験ヲ執行シ裂疵ヲ生セサルコトヲ要ス

加工ノ爲加熱スル部分及火焰ニ接觸スル部分ニ使用スル鋼材ニハ燒入屈曲試験ヲ、其ノ他ノ鋼材ニハ燒入屈曲試験又ハ常温屈曲試験ヲ執行スヘシ、鉸釘用圓材ニハ屈曲試験ヲ執行セス

第十一條 鋼製ノ鉸釘ニハ左ノ試験ヲ執行スヘシ  
一 屈曲試験 常温ノ儘其ノ桿部ヲ百八十度屈曲シテ相接著セシメ屈曲ノ外部ニ裂疵ヲ生セサルコトヲ要ス

二 鍛鍊試験 鉸釘ヲ熱シ其ノ頭ヲ釘徑ノ二五倍迄ニ扁平ニ打壓シ裂疵ヲ生セサルコトヲ要ス

第十二條

軸、軸ノ一部其ノ他打物ヲ通常使用スヘキ箇所ニ使用スル鑄鋼材ニハ左ノ試験ヲ執行スヘシ  
一 抗張試験 一平方吋ノ抗張力ハ二十六噸以上三十六噸以下ニシテ其ノ伸長ノ割合ハ百分ノ二十以上ナルコトヲ要ス

二 屈曲試験 常温ノ儘二吋ヲ超エサル内徑ヲ以テ百二十度以上屈曲シ裂疵ヲ生セサルコトヲ要ス

三 墜落試験 鑄鋼材ハ其ノ形狀及重量ニ應シ七呎乃至十呎ノ高ヨリ硬質ノ地上ニ之ヲ墜落スヘシ但シ長大又ハ複雑ナル形狀ニシテ之ヲ墜落スルトキハ變形スル虞アルモノニ付テハ鑄物ノ上部及底部ヨリ各二箇ノ試験材ヲ採リテ抗張試験及屈曲試験ヲ執行シ墜落試験ヲ省略スルコトヲ得

四 鉋打試験 鑄鋼材ハ墜落試験ヲ執行シタル後之ヲ吊シテ重量七封度以上ノ鉋ヲ以テ敲キ其

ノ生來ノ裂痕及墜落試験ニ起因スル裂痕ノ有無ヲ檢シ其ノ痕跡ヲキコトヲ要ス  
 鎚打試験ハ墜落試験ヲ省略シタルモノニ付テモ亦之ヲ執行スヘシ

第十三條 前條ニ掲クルモノヲ除キ其ノ他ノ鑄鋼材ニハ前條ノ墜落試験及鎚打試験ヲ執行シ抗張  
 試験及屈曲試験ヲ執行セス

第十四條 軸、吸鑿、銲接、續銲、滑瓣銲、及隔心銲ニ使用スル鍛鋼材ニハ幹部ヨリ小ナラサル截面ヲ有ス  
 ル部分ヨリ縦ニ切取リタル試験材ニ付左ノ試験ヲ執行スヘシ此ノ場合ニ於テ試験材ハ之ヲ鍛鍊  
 スルコトヲ得ス

一 抗張試験 一平方吋ノ抗張力ハ二十八噸以上三十五噸以下ニシテ伸長ノ割合ハ抗張力二十  
 八噸ノモノハ百分ノ二十九以上、抗張力三十五噸ノモノハ百分ノ二十二以上又抗張力ノ噸數  
 ト伸長ノ割合ノ百分率ノ分子トノ和ハ五十七以上ナルコトヲ要ス

二 屈曲試験 常温ノ儘二分ノ一時ヲ超エサル内徑ヲ以テ百八十度屈曲シ裂痕ヲ生セサルコト  
 ヲ要ス但シ一平方吋ノ抗張力三十二噸ヲ超ユルモノニ在リテハ屈曲ノ内徑ヲ四分ノ三吋ト  
 ナスコトヲ得

第十五條 可鍛鑄鐵材ニハ遞信大臣ノ適當ト認ムル材料試験ヲ執行スヘシ但シ重要ナラサル部分  
 ニ使用スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十六條 試験材ニハ原材料ト異リタル熱處理ヲ爲スコトヲ得ス

燒鈍スヘキ鍛鋼材及鑄鋼材ノ試験材竝加工前燒鈍スヘキ罐板ノ試験材ハ材料ヲ燒鈍シタル後之  
 ヲ切取ルコトヲ要ス

第十七條 試験材ノ數ハ左表ニ依ルヘシ

種類

加工ノ爲加熱シ又ハ火  
烙ニ接觸スル部分ニ使  
用スル鋼板

其ノ他ノ鋼板

加工ノ爲加熱シ又ハ火  
烙ニ接觸スル部分ニ使  
用スル鋼形材

其ノ他ノ鋼形材

鋼  
圓  
材

抗張試験材ノ數

一箇  
壓延シタル儘ノ板一枚毎ニ

同 右

同一銑解ノ形材毎ニ二箇  
（同一銑解ヨリ壓延シタル  
形材カ十五箇ヲ超ユルトキ  
ハ超エタル數十五箇又ハ其  
ノ未滿毎ニ一箇ヲ加フ）又  
ハ同一種類ノ材料ヨリ検査  
官吏ノ適當ト認ムル數

同 右

同一銑解ノ圓材毎ニ二箇  
（同一銑解ノ圓材カ十五箇ヲ  
超ユルトキハ超エタル數十五  
箇ヲ加フ）又ハ同一種類ノ材  
料ヨリ検査官吏ノ適當ト認ム  
ル數

屈曲試験材ノ數

一箇  
壓延シタル儘ノ板一枚毎ニ  
焼入屈曲試験材一箇

一箇  
壓延シタル儘ノ板一枚毎ニ  
焼入屈曲試験材一箇

一箇ノ鋼片ヨリ壓延シタル  
形材毎ニ焼入屈曲試験材  
一箇又ハ同一種類ノ材料ヨ  
リ検査官吏ノ適當ト認ムル  
數

一箇ノ鋼片ヨリ壓延シタル  
形材毎ニ焼入屈曲試験材若  
ハ常温屈曲試験材一箇又ハ  
同一種類ノ材料ヨリ検査官  
吏ノ適當ト認ムル數

同一銑解ヨリ壓延シタル圓  
材十五箇若ハ其ノ未滿毎ニ  
焼入屈曲試験材及常温屈曲  
試験材各一箇又ハ同一種類  
ノ材料ヨリ検査官吏ノ適當  
ト認ムル數

鍛鍊試験材ノ數

鋼 鉸 釘 同 上 同 上

軸等打物ヲ通常使用ス  
ヘキ箇所ニ用フル鑄鋼  
鑄鋼材毎ニ一箇、二箇解以  
上ノ鎔解ヨリ製造シタル鑄  
鋼材ニ付テハ四箇

鍛 鋼 材 同 上  
鍛鋼材毎ニ一箇

二噸二分ノ一以上ノ重量ヲ有スル鋼板ニ在リテハ其ノ兩端ヨリ抗張試驗材及屈曲試驗材各一箇宛ヲ採リ屈曲試驗材ニ付テハ燒入屈曲試驗ト常温屈曲試驗トヲ執行スヘシ

小形鍛鋼材及小形鑄鋼材ニ在リテハ本表ニ掲クル試驗材ノ検査官吏ノ適當ト認ムル數迄減スルコトヲ得

鐵材ノ試驗材ノ數ハ検査官吏ノ適當ト認ムル所ニ依ル

第十八條 本章第九條及第十條ノ試驗材カ試驗ニ合格セサルトキハ更ニ同一材料ヨリ二箇ノ試驗材ヲ採リ其ノ適否ヲ試驗シ二箇ノ試驗材カ共ニ試驗ニ合格シタル場合ニ於テハ之ヲ合格トス

試驗材カ前項ノ試驗ニ合格セサル場合ニ於テハ試驗材ヲ採リタル材料ヲ除キ其ノ他ノ材料毎ニ

本章第九條及第十條ノ試驗ヲ執行シ合格シタルモノハ之ヲ合格トス

本章第十一條ノ試驗材カ試驗ニ合格セサルトキハ更ニ二箇ノ試驗材ヲ採リ其ノ適否ヲ試驗シ二

箇ノ試驗材カ共ニ試驗ニ合格スルトキハ之ヲ合格トス

本章第十二條及第十四條ノ試驗材カ抗張試驗又ハ屈曲試驗ニ合格セサルトキハ検査官吏ニ於テ

該試驗ノ結果ヲ考量シ試驗材カ適當ニ材質ヲ表明セスト認メタル場合ニ限り合格セサルモノニ

對シ更ニ試驗材ヲ作りテ其ノ適否ヲ試驗シ該試驗材カ合格スルトキハ之ヲ合格トス

第十九條 遞信大臣ハ本章ノ規定ニ合格セサル材料ト雖材料試驗ノ成績ニ徴シ之カ使用ヲ認可ス

ルコトアルヘシ